

令和 4 年 6 月 8 日現在

機関番号：12601

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2021

課題番号：18K13268

研究課題名（和文）配偶者選択における社会的伝達の検証

研究課題名（英文）Examination of social transmissions in human mate choice

研究代表者

高橋 翠（Takahashi, Midori）

東京大学・大学院教育学研究科（教育学部）・特任助教

研究者番号：60816867

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、ヒトにおける配偶者選択の社会的伝達 / 他同性他個体の選択の模倣の検証と、社会文化・文脈要因との相互関連性について検討した。については、先行研究が外見的特徴（顔）に対する魅力評価の変化を検討していることから、初めに顔の魅力評価における社会的伝達を検討した。特に女性の配偶者選択では外見的特徴（容姿）以外の要素（性格特性や資源など）が重要であることから、通文化的に配偶者選択に関わる複数の要素を取り上げ、他者の選択情報が与えられた際に、配偶者選択にどのような影響があるか検討した。また、配偶者選択における被影響性の認知についても検討を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の意義は、配偶者選択における社会的伝達という、これまで検証が不十分であった研究課題を発展的に追試した点と、進化心理学領域において実施されてきた配偶者選択に関する研究と、社会科学分野で実施されてきたジェンダー研究の統合的検討を行った点である。特に後者については、研究3、4において社会的伝達という進化生物学的・心理学的プロセスのあり方が個人の性役割規範によって異なる可能性が示唆された。配偶者選択およびそれらを通じた社会・文化のジェンダー規範の発生と維持に、進化生物学的プロセスと社会・文化的プロセスがどのように相互作用し関与しているかを明らかにするための嚆矢となる研究であると考えられる。

研究成果の概要（英文）：In this study, (1) examination of social transmission of spouse choice in humans / imitation of selection of other same-sex individuals, and (2) interrelationship with sociocultural / context factors were examined. Regarding (1), since the previous research examined changes in attractiveness evaluation for appearance features (facial attractiveness), we first examined social transmission in facial attractiveness evaluation. Especially in female spouse selection, factors other than appearance characteristics are important (i.e., social status and resources), we focused on multiple factors that are universally related to partner preference and examined the effect of information of others' choice. We also examined the perception of impacts of others' information in mate choice decision.

研究分野：進化心理学

キーワード：配偶者選択 社会的伝達 配偶者選択の模倣 進化心理学 性役割観

1. 研究開始当初の背景

これまで、ヒトにおいても配偶者選択において社会的伝達（Social Transmission）／同性他個体の選択の模倣（Mate Choice Copying）が生じるかどうかについて検討が行われてきたが（例、Bowers et al., 2012; Yorzinski et al., 2010）、研究結果の再現性や現象の定義について疑問や課題が提示されてきた（Gouda-Vossos et al., 2018; Street et al., 2018）。

また、ジェンダー規範は進化生物学・心理学的な要因を背景とした配偶者選択に影響を与えることが指摘されているが（Zentner & Eagly, 2015）、進化生物学・心理学的要因と社会文化・文脈要因（個人のジェンダー規範等）が異性選択場面においてどのような影響を及ぼすのかという点については検討が行われていない。

2. 研究の目的

本研究の目的は、①ヒトにおける配偶者選択の社会的伝達／他同性他個体の選択の模倣の検証と、②社会文化・文脈要因との相互関連性について検討することであった。①については、当該領域に関する複数の先行研究が外見的特徴（顔）に対する魅力評価の変化を検討していることから、初めに顔の魅力評価における社会的伝達（他者の評価情報を付与することの効果）について検討を行った。特に女性の配偶者選択においては、外見的特徴（容姿）以外の要素（性格特性や資源など）が重要であることから（Buss, 2007）、通文化的に配偶者選好に関わる複数の要素を取り上げ、他者の選択に関する情報が与えられた際に、個人の配偶者選好にどのような影響があるか検討を行った。また、先行研究では個人が配偶者選択における他者からの被影響性をどのように認知しているかという点を検討していない。そこで本研究では、個人が異性選択の文脈においてどのような対象に参照しているか、配偶者選択における被影響性の認知について検討を行った。一連の研究において、個人が内面化しているジェンダー規範（ジェンダーに関わる期待や予期）の影響も検討することで、配偶者選択における進化生物学・心理学的要因と社会文化・文脈要因の相互関連性についても検討を行った。

3. 研究の方法

研究1 外見的特徴（顔）に対する魅力評価に関する文献研究

配偶者選択の社会的伝達に関する先行研究では、顔の魅力が研究対象となってきたことから、顔の魅力に関する近年の進化心理学・社会心理学研究を対象とした文献調査を実施した。

研究2 顔の魅力評価における社会的伝達の検討

20歳～45歳独身の女性を対象として、顔の魅力評価に他者の評価情報が与える影響に関するウェブ実験を行った。回答者のうち、異性愛の女性1252名（平均31.78歳）が分析の対象となった。実験では、8名の男性顔写真に対して①長期的な相手／短期的な相手としての魅力評価を行ってもらった際に、②誰が（同年代の独身女性／同年代の既婚女性／男性）、③どのような評価を写真の男性に対して行っているか（ポジティブ評価／ネガティブ評価）に関する情報を付与した（②③の情報がない群も含めて計14条件；参加者間計画）。その際、個人の性役割観（Crabtree & Muroga, 2021）にも回答してもらい、関係性の文脈（長期／短期）と他者の評価情報（対象と情動価）、性役割観が顔の魅力評価に与える影響を検討した。

研究3 配偶者獲得資源配分実験における社会的伝達の検討

Li et al. (2002) の追試をウェブ実験として実施した。18歳～45歳の男女を対象として、仮定の配偶者獲得資源（予算10万円／20万円／30万円）を配偶者として望ましい資質（容姿、収入・社会的地位、明るさ、優しさ、創造性）に対して分配してもらった。最終的な分析の対象となったのは異性愛の男女（男性632名・女性626名）であった。それぞれの金額での資源配分において、過去に同じ実験に参加した同年代の同性が配偶者選択（長期的関係／短期的関係）において収入・社会的地位または容姿を重視していたという情報を付与して（特に他者の評価情報を与えない統制群も設けた）、それぞれの群で付与された情報が配偶者の資質に対する資源配分行動にどのような影響を与えるか検討した。その際、研究2と同様に個人の性役割観についても回答してもらった。

研究4 配偶者選択における他者からの被影響性の認知について

男女が配偶者選択において、誰の行動を参照しているのか検討を行った。2つの関係性の文脈（短期的関係／長期的関係）それぞれについて、年下の同性／異性、同年代の同性／異性、5～10歳年上の同性／異性、親世代の同性／異性の配偶者選択行動からどのくらい影響を受けているかということについて、ウェブ上で回答してもらった。研究2、3と同様に個人の性役割観についても回答してもらった。20歳～49歳の異性愛の男女928名（男性460名、女性466名、平均年齢32.32歳）が分析の対象となった。

4. 研究成果

研究1 外見的特徴（顔）に対する魅力評価に関する文献研究

顔の魅力規定因に関する最近の進化心理学・社会心理学研究の動向と展望が明らかになった。

研究2 顔の魅力評価における社会的伝達の検討

8名の男性顔の魅力評価を従属変数として、関係性の文脈（長期／短期）×評価（ポジティブ／ネガティブ）×評価対象者（同年代独身女性／同年代既婚女性／同年代既婚女性／男性）を独立変数とした共分散分析を行ったところ（共変量として女性の年齢を投入した）、関係性の文脈の主効果のみが有意であった（短期的関係＞長期的関係）。したがって、本実験では魅力評価において社会的伝達の効果は確認されなかった。性役割観の高／低を独立変数として投入した場合には、参照対象の効果が有意になったが、情動価との交互作用が有意でなかったため、社会的伝達は生じなかったと考えられる。

研究3 配偶者獲得資源配分実験における社会的伝達の検討

男女それぞれについて、長期的パートナー（理想の結婚相手）を選択する際の配偶者獲得資源（予算10万円／20万円／30万円）を参加者内要因とした分散分析を行った（独立変数[参加者間]：同年代同性の評価情報[容姿を重視／収入・社会的地位を重視／情報なし（統制群）]、性役割観（高・低）、従属変数：容姿／収入・社会的地位それぞれについていくら分配したか[金額]）。その結果、女性では配偶者獲得予算金額×同年代同性の評価情報×性役割観の交互作用が有意であった。下位検定の結果、伝統的性役割観をもつ女性は、予算が少ない条件（10万円）で同性同年代他者が収入を重視したという情報が提示された場合に、非伝統的性役割観をもつ女性に比べて収入・社会的地位を重視する一方で、予算が潤沢にある条件（30万円）で同性同年代他者が容姿を重視したという情報が提示された場合に、非伝統的性役割観をもつ女性に比べて容姿により多くの資源を分配することがわかった。男性においても金額×同年代同性の評価情報×性役割観の交互作用が有意であった。下位検定の結果、伝統的性役割観をもつ男性は、予算が少ない条件（10万円、20万円）において、同性他者が養子を重視していたという情報が提示された場合に、容姿に対してより多くの資源を配分したことがわかった。

研究4 配偶者選択における他者からの被影響性の認知について

配偶者選択における他者からの被影響性については、性別×関係性の文脈の交互作用がみられた。下位検定の結果、女性について、長期的関係の文脈（結婚相手を検討する際）において、同性代の同性からの影響を最も強く受けると回答していた一方、男性では全体として他者からの被影響性は少ないものであった。また、他者からの被影響性について因子分析を行ったところ、①同世代（同性・異性）と5～10歳上の世代（同性・異性）と②異世代（年下と親世代の同性・異性）の2因子に分かれた。性役割観と被影響性との関連をこの2因子について検討したところ、伝統的性役割観をもつ女性は、そうでない女性に比べて同世代からの被影響性をやや少ないと評価した一方、異世代（特に親世代）の被影響性を高く評価していた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 高橋翠	4. 巻 6(1)
2. 論文標題 笑顔と魅力の関係性-ヒトは顔から何を読み取っているか-	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 エモーション・スタディーズ	6. 最初と最後の頁 28-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20797/ems.6.1_28	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------